◇牧師室より◇

荒井献先生が「聖書のなかの差別と共生」を出版された。精密な文献研究と時代の思想的背景から聖書を立体的に説き明かしている。大きな広がりを持つ議論と外典を含めたギリシャ語の細かい議論について、とても紹介できない。いつものように触発されたことを書きたい。

教会は聖書を「神の言葉」と信じ、教団の信仰告白でも「神の霊感によって成り、(中略)信仰と生活の誤りなき規範なり」と告白している。ここから、聖書の一字一句をそのまま信ずべきであるとする「キリスト教原理主義」が生まれる。確かに、聖書は教会にとって唯一の「正典」である。しかし、その聖書も歴史の中で生きた人間が書いた「古典文書」である。それは、聖書記者たちも時代の制約を受けていたということである。今日から見れば、差別用語、差別思想が歴然とある。先生は、これらを「神の言葉」のゆえに「護教的」に受けとめる必要はない。むしろ、差別を明示することによって、聖書の根底に流れている「共生」を際立たせることができると、語る。そして、その実例を多方面から克明に論証している。先生は「聖書は、その社会的コンテキストたる現代の読者がどの視点からその本文に接近するかによって、差別から共生への道を拓くことも、それを閉ざすことも、どちらもできる、そのような書物なのである」と、読者の視点が聖書理解を決定していくと書いている。更にその視点は、「われわれ差別者を生かす被差別者の中に、自らを彼らと同一化して生きたイエスを求め、彼に出会うのでなければ、差別ー被差別の連鎖を断ち切り、共生の道を見出すことはできないであろう」と、差別される者の側に立つことであると語っている。

私たちはこの視点にどうやって立てるか、又「共生」の道を拓かれた主イエスとどのように関わるかということである。

週　　報

1999年11月7日　降誕前第7主日
聖徒の日（永眠者記念日）
巻20　　32号

1999年度　教会主題
「互いに仕え合う」

聖　句　兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。
ガラテヤの信徒への手紙　5章13節

目　標
1．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2．キリストの体なる教会形成に参与する。
3．教会創立20周年記念に備える。

日本キリスト教団　**横浜港南台教会**
横浜市港南区港南台7丁目8－29
郵便番号　234－0054
電　　話　045－833－5323
F A X　045－833－6616
振　　替　00290－4－13994

牧師　秋吉隆雄